

# 映像授業 ウイニングネット 導入に関して

- 会の最中はミュートにさせていただくようお願い致します。
- 生徒様のお名前での表示をお願い致します。

# ウイングネット導入の理由

大前提

対面授業ありき

## ① 授業の効率化

⇒対面授業で扱いきれない(扱うほどでもない)単元の補填

## ② 共通テスト対策

⇒難化する共通テストに対応するために演習量アップ

## ③ 不足教科の補填

⇒集団授業での開講が難しい科目の補填

# ウイングネット導入講座(予定)

## 英語(自宅視聴型)

後回しになりがちなリスニング対策を早期に取り組む

講座	ウイングネット	時期
高3英語総合S+/S/SA	共通テストリスニング	通年
(高2英語総合S+/S/SA)	共通テストリスニング	通年

## 難化する共テリスニング

共テリスニング 平均点推移

2024年度	2025年度	2026年度
67.2点	61.3点	54.6点

共テのリスニングは近年難化傾向にあります。直前に軽く演習しただけで対応できるものではありません。そして共テ特有の問題形式から、「耳が良い」だけでは高得点は難しい試験でもあります。つまり、**共テの問題形式に慣れておく必要があります。**そのためにも日常的に演習を積むことで経験値アップを図る狙いです。

# ウイングネット導入講座(予定)

## 数学(自宅視聴型)

映像授業の活用で豊富な演習量を確保

講座	ウイングネット	時期
中3数学総合S	データの分析 など	各講習会
中3数学総合SA	データの分析、図形の性質 など	各講習会
高1数学総合SA	データの分析、共テ演習	各講習会
高2理系数学総合SA	共テ演習	各講習会
高2文系数学総合SA	共テ演習	各講習会

単元の優先順位。  
共テには出るが  
二次試験には出  
ない単元は対面  
授業では扱わず  
映像授業で補填  
していく。

## 共テ数学の早期対策

数Ⅲは対面で、既習単元の復習(演習)は映像で

現在の共テ数学は**数学の力があるだけでは解けません**。共テ特有の読み取りや総合力が問われる試験では豊富な演習量が必要となります。そのため早期からの共テ対策は必須です。

# ウイングネット導入講座(予定)

## 理科(教室視聴型)

優先度の高い化学は対面で、物理・生物を映像授業で実施

講座	ウイングネット	時期
高2化学総合S・SA	ベーシック物理/生物	通年
高3化学総合S・SA	入試物理/生物、共通テスト物理/生物 など	通年

## 個々のカリキュラム

理科は学校による進度差が大きい

中高一貫校でも理科は進度が大きく異なり、理解度も個人ごとに差があります。そのため従来の集団授業のカリキュラムでは不十分なことがあります。映像授業を活用することで、個人の進度や理解度に合わせたカリキュラムを組み、それぞれに合った映像授業を受講していくことが可能となります。

# 理科の受講パターン(例)

## 高2化学総合S・SA

時限	授業	教室
5限	高2化学総合S・SA 対面	夙川校
6限	ベーシック物理/生物 映像	夙川校

自宅で視聴するのではなく化学の授業の前後に教室でそのまま視聴することで定期視聴が可能

その場での質問対応が可能

映像と対面のハイブリッド

従来の完全映像授業や自宅視聴型での映像授業の形式と異なり、化学の対面授業の前後に校舎で視聴するため、**守山講師がその場で質問対応や理解度のチェック**をすることが出来ます。また、**進度に合わせて個々のテストも実施**しますので「見ただけ」で終わることはありません。

# 共通テスト完成に向けて

副教科は映像授業で効率よく

単科受講も可能

理系の社会、文系の社会2科目や理科基礎などは後手に回りがちな科目です。かと言って、塾に行っても対面授業を受ける余裕はありません。自力で取り組む生徒も多いですが、参考書を読んで演習をして...と自分でペースを作ることが出来ればよいですが実際は難しい生徒がほとんどです。であれば、定期的に映像を視聴することでペースを作った方が効率的とも言えます。

## 【理系】

- ・ 社会
- ・ 情報

## 【文系】

- ・ 社会(公民)
- ・ 理科基礎
- ・ 情報

平常授業とセットではない単科受講の場合も視聴履歴等はこちらで追跡し、定期的に面談などを行い進捗状況を確認していきます。

# 放置を防ぐために

## 映像授業における最大の不安

徹底した管理体制によるペースメイク

最大の不安はなんと言っても「ちゃんと見るのか」というところ。その不安を解消するためにコラボでは生徒個人のペースでの視聴ではなく視聴履歴、進捗などを追跡することでペースをコントロールします。

平常授業と紐づけることによって、どの動画を見るかも生徒個人に任せるのではなく、**動画の選択や視聴時期も平常授業の担当講師が選定**します。そのため必要な時期に必要な動画を視聴できます。また、**担当講師による声掛け**を行うことができますので、動画を見ずに放置してしまうことを防ぎます。

担当講師による  
動画選定

動画視聴

視聴  
チェック

各講師への  
フィード  
バック

生徒フォロー  
(面談)